

2015年(平成27年) 11月26日(木曜日)

産業創出見据え益子町

道の駅開業へ三セク設立

6000万円、地元企業など出資

【益子】町が長堤に整備を進めている町地域振興拠点施設の運営主体となる第三セクター「株式会社まじこカンパニー」の創立総会が25日、町役場大会議室で開かれた。資本金は6千万円で、町のほか地元金融機関などが出資。代表取締役社長には大塚朋之町長が就任した。地域特産物の生産や販売に加え、「産業創出」をテーマに関連事業を手掛けていく。

同施設は2016年10月の開業を目指しており、「道の駅」として国土交通省に登録申請する計画。総事業費は約14億円を見込む。柔軟な経営と各種事業展開が可能な三セク運営へ向け、9月から具体的な準備を進めてきた。

資本金6千万円のうち、約83%に当た



総会後の記者会見で会社設立の趣旨などを説明する大塚町長

る5千万円を町が出資。JAはが野、足利銀行、栃木銀行、真岡信用組合、地域プロデュース事業などを展開する株式会社ファーマーズ・フォレストの5企業・団体が200万円ずつ計1千万円を出資する。資本金はオープン当初3カ月分の運転資金や、宣伝広告費、レント費といった開業費などに充てられる見込み。

創立総会には出資者や県の関係者ら約20人が出席し、取締役6人、監査役2人の

選任を報告。社長に就任した大塚町長は「(まじこカンパニーと道の駅を)産業、商品、人材の創造拠点に育て、将来的には町のあらゆる分野のものを世界に発信したい」と決意を述べた。町が16年度から5カ年で実施する「新ましこ未来計

画」で、道の駅を拠点とした産業振興は重点施策の一つ。今後は同計画で設定した町内総生産、有効求人倍率の目標数値達成へ向け、同社による各種事業などを通じて雇用創出、地域活性化を目指していく。

(鈴木茂樹)

道の駅「もてなしの玄関口」に

益子町長運営会社設立

来年10月の開業を目指している益子町の道の駅を運営する「株式会社ましこカンパニー」が25日、設立された。資本金6000万円のうち、町が5000万円出資する第3セクターで、社長に大塚朋之益子町長が就任した。建設地は、北関東道

真岡インターチェンジと桜川筑西インターチェンジから、いずれも10キロほどの位置にあり、建設用地約2・2公顷で、総事業費は約14億300万円を見込んでいる。設立後、記者会見した大塚町長は「町のおもてなしの玄関口として、多様なサ

ービスと情報を伝える新たな地域振興拠点になる」と説明。農産物の販売だけでなく、益子焼で多くの人を集めるだけに、「『手仕事のまち』として、商品づくり、産業づくり、人づくりをしていきたい」と強調した。

町以外の出資者は、JAはが野、足利銀行、栃木銀行、真岡信用組合のほか、「道の駅うつのみやろまんちつく村」指定管理者のファーマーズ・フォレスト。ファーマーズ・フォレストの松本謙社長が取締役に就き、大塚町長は「観光業や地域商社としての視点での働きを期待している」と話した。

ーを発売するほか、来年4月にはボンネットバスでの日帰り観光ツアーを実施する予定。同社は「ボンネットバスに乗れる機会が少ない。昭和の雰囲気を感じてほしい」と話している。